

学科等における教員養成に対する理念・目標・教育課程

学部・学科	人文学部人類文化学科
校種（免許教科）	中学校教諭一種免許（社会） 高等学校教諭一種免許（地理歴史）
<p>（1）学科の理念</p> <p>人類文化学科は、「人間の尊厳のために」という教育モットーのもと、1.文化人類学、考古学、哲学、言語学についての基本的知識をふまえ、歴史学、科学論を含めた学際的な視点から問題を考察する能力、2.日本を含めた世界の歴史、社会、文化の諸問題に関心を持ち、それらを解決するために必要な専門的知識を有し、それを応用する能力、を涵養することで、人類が創り上げてきた文化の多様性やその歴史についての知識、および人間の普遍的な本質についての洞察力を活かして国際社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>（2）教員養成の目標・計画</p> <p>以上のような学科の理念に基づいて本学科が養成をめざす教員像とは、社会、地理歴史に関するしっかりとした基礎知識の上に立って、人類に共通する普遍的価値を認識し、異なる文化、異なる宗教的信念をもつ人びとと協調しつつ教育に邁進する人材である。グローバル化が進む今日、教育現場における教員のこのような姿勢と能力はますます重要なものとなっていよう。こうした教員を養成するために、本学科の教育カリキュラムでは、考古学・文化史コース、文化人類学コース、哲学人間学コースという3種の履修モデルコースを学生に提供している。学生に対してはこれらのコースにしたがってそれぞれの専門知識を深めるとともに、3コースを横断的に学習することを指導しており、その結果として中学、高校の社会科担当者に相応しい、社会、地理歴史に関する幅広い教養を身につけられるよう配慮している。また、学科カリキュラムの柱となっているのが1年次から4年次までに配された必修の演習系科目と最終学年における研究プロジェクト（卒論）である。これらを通して、教職課程履修者を含むすべての学科生は、問題の発見、分析、プレゼンテーション、討論に関して繰り返し学ぶことになる。こうした学習は高校における授業運営のスキルを磨き上げることにつながるものと考えている。同時に本学科では、フィールドワーク経験豊富な幅広い専門領域の学科教員による指導をおこない、さらには学内の人類学博物館を有効活用することによって、生きた実践力と応用力を身につけた中学、高校教員の養成をめざしている。</p> <p>（3）授業科目・教育課程の編成実施（校種・免許教科別に記載）</p> <p>（ア）中学校教諭一種免許（社会）</p> <p>人類文化学科では、免許法施行規則に定める科目区分にもとづき、「日本史・世界史」、「地理学（地誌を含む）」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、「日本史・世界史」では、必修科目として、「日本史概論」、「世界史概論」を配置する。また、選択科目として、「考古学入門」、「考古学概論」、「文化史A」、「文化史B」、「地域の文化と歴史（西アジア）」、「東アジア考古学A」、「東アジア考古学B」、「現代の考古学」、「人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）」、「人類文化学特殊講義（旧石器・縄文時代論）」、「人類文化学特殊講義（新大陸の考古学）」、「人類文化学特殊講義</p>	

義（中国的世界の形成）」を配置する。「地理学（地誌を含む）」では、必修科目として、「人文地理概説」、「自然地理概説」、「地誌概説」を配置する。また、選択科目として、「地域の文化と歴史（アフリカ）」、「地域の文化と歴史（東南アジア）」、「地域の文化と歴史（環太平洋）」、「地域の文化と歴史（南アジア）」、「地域の文化と歴史（アメリカ大陸）」、「地域の文化と歴史（オセアニア）」、「歴史人類学」、「人類文化学特殊講義（アフリカの人類学）」、「人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）」を配置する。「社会学、経済学」では、選択科目として、「文化人類学概論」、「現代の文化人類学」、「文化理論」を配置する。「哲学、倫理学、宗教学」では、必修科目として、「哲学概論」を配置する。また、選択科目として、「意味論」、「論理学」、「科学文化論 A」、「科学文化論 B」、「現代の哲学」、「応用哲学 A」、「応用哲学 B」、「宗教人類学」、「知識と社会」、「近代哲学史」、「人類文化学特殊講義（大陸哲学）」、「古代哲学史 I」、「古代哲学史 II」、「中世哲学史 I」、「中世哲学史 II」、「近世哲学史 I」、「近世哲学史 II」を配置する。また、教科指導法として「社会・地歴科指導法 A・B」、「社会・公民科指導法 A・B」を必修としている。

（イ）高等学校教諭一種免許（地理歴史）

人類文化学科では、免許法施行規則に定める科目区分にもとづき、「日本史」、「外国史」、「人文地理学・自然地理学」、「地誌」の四つの領域について、それぞれ特色ある授業科目を設けている。まず、「日本史」では、必修科目として、「日本史概論」を配置する。また、選択科目として、「人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）」、「人類文化学特殊講義（旧石器・縄文時代論）」、「考古学入門」、「考古学概論」、「文化史 B」を配置する。「外国史」では、必修科目として、「外国史概論」を配置する。また、選択科目として、「現代の考古学」、「文化史 A」、「地域の文化と歴史（西アジア）」、「東アジア考古学 A」、「東アジア考古学 B」、「人類文化学特殊講義（新大陸の考古学）」、「人類文化学特殊講義（中国的世界の形成）」を配置する。「人文地理学・自然地理学」では、必修科目として、「人文地理概説」、「自然地理概説」を配置する。また、選択科目として、「歴史人類学」を配置する。「地誌」では、必修科目として、「地誌概説」を配置する。また、選択科目として、「地域の文化と歴史（アフリカ）」、「地域の文化と歴史（東南アジア）」、「地域の文化と歴史（環太平洋）」、「地域の文化と歴史（南アジア）」、「地域の文化と歴史（アメリカ大陸）」、「地域の文化と歴史（オセアニア）」、「人類文化学特殊講義（アフリカの人類学）」、「人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）」を配置する。また、教科指導法として、「社会・地歴科指導法 A・B」を必修としている。